

慶應義塾大学 シラバス・時間割

体育学講義 I (メガスポーツ・イベント論)

サブタイトル	メガスポーツ・イベント論
担当者名	村山 光義
単位	2
年度・学期	2025 春
曜日時限	水5
キャンパス	日吉
教室	体育研究所講義室
授業実施形態	対面授業 (主として対面授業)
登録番号	08448
設置学部・研究科	体育研究所
学年	1, 2, 3, 4
評語タイプ	S, A, B, C, D
科目概要	体育学講義では、健康と身体運動、トレーニングやコーチングに関わる基礎理論の学修のほかにスポーツの文化的側面の考察など、多様な視点から体育・スポーツ科学を学ぶことができます。
K-Number	IPE-CO-00209-211-59

[▼ 詳細](#)

授業科目の内容・目的・方法・到達目標

2024年パリオリンピックに続き、2026年にはイタリア・ミラノで冬季オリンピックが開催され、パラリンピックも続けて開催される。また、2025年には東京でデフリンピック、世界陸上、2026年には名古屋でアジア大会、2027年にはワールドマスターズゲームズ2027関西が開催される。さらに、多くの競技が1年から4年のサイクルでワールドカップやメジャー大会を開催し、世界や地域の頂点を競うメガスポーツイベントが続いていく。こうしたメガイベントでは、日本代表の成績が注目を浴びることが多い一方、開催の是非や経済効果、メディアの扱い等、問題視される部分もある。これらの開催には商業的要素だけではなく、スポーツの哲学的・教育的な要素、人類の文化的価値としての保持・発展といった要素が存在する。そこで本講義では、メガスポーツ・イベントを題材にスポーツを様々な観点から論じ、スポーツが持つ力について考えていく。

能動的学修形式 [説明](#)

プレゼンテーション
ディスカッション、ディベート
グループワーク
反転授業

準備学修 (予習・復習等)

参考資料の参照および映像資料の視聴 (e-learning) による予習・復習。事前学習によってディスカッションなどを行う反転授業の準備を含む。

授業の計画

第1回

第2回

人類とスポーツの関係

第3回

スポーツの進化：e-Sportsを考える

第4回

慶應義塾のスポーツ活動の歴史

第5回

オリンピックの歴史とオリンピックムーブメント1

第6回

オリンピックの歴史とオリンピックムーブメント2

第7回

トップアスリートに学ぶ（特別講師を招いて）

第8回

パラリンピックとパラリンピックムーブメント

第9回

パラスポーツを考える

第10回

スポーツボランティア

第11回

パラアスリート（支援）に学ぶ

第12回

スポーツイベントと経済

第13回

オリンピック, メガスポーツ・イベントの未来

第14回

まとめ・総括

その他

参考資料の参照および映像資料の視聴（e-learning）による予習・復習。事前学習によってディスカッションなどを行う反転授業の準備を含む。

成績評価方法

平常点（授業参加の積極性など）(20%)と授業内容の確認レポート(40%)と最終回に実施する試験(40%)による。

テキスト（教科書）

特になし

参考書

授業の中で紹介します。

担当教員から履修者へのコメント

予習として、メガスports・イベントの概要を調べておくことで授業内容の理解が進みます。また授業後は、授業中に取り上げた話題・課題のみならず、他の社会的課題との関連について考えを深めるとメガスports・イベントの影響力がより深く理解できるでしょう。

これを契機にメガスports・イベントはもちろんのこと、sportsについて考えていく良い機会になるはずです。

【今後の新型コロナウイルス感染症の動向等によっては、大学の対応に準じて授業形態および成績評価方法を変更する可能性があります。尚、変更を行う場合にはCanvasにてお知らせします。】

質問・相談

講義の前後に随時受け付けます。あるいは、murayama@keio.jp で随時受け付けます。